

やすらぎ通信

第 35 号 (平成 25 年 10 月 1 日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

神無月(かんなづき)

村祭(むらまつり)

作詞 作曲 文部省唱歌

村の鎮守の神様の
今日はめでたい御祭日
ドンドンヒャララ ドンヒャララ
ドンドンヒャララ ドンヒャララ
朝から聞こえる笛太鼓

年も豊年満作で
村は総出の大祭
ドンドンヒャララ ドンヒャララ
ドンドンヒャララ ドンヒャララ
夜まで賑わう宮の森

(3 番略)

秋もいよいよ本格化し、スポーツの秋、文化の秋、実りの秋、食欲の秋などにぎやかな装飾語で飾られるシーズンを迎えました。10月は旧暦では神無月（かんなづき）と呼ばれ、その由来は神を祭る月であるから「神の月」とする説が有力なようですが、それ以外にも10月には全国の神々が出雲大社に集まり諸国に神がいなくなることから名づけられたという説はみなさんも良くご承知のことでしょう。昔は作物が実るのも自然任せのところが多く、出来、不出来があったにせよ実りの秋を迎えることができた人々がその喜びを表し神々に感謝をささげる季節であったことは確かでしょう。

日本では各地、各季節にそれぞれ由来のあるお祭りが神に奉げるために毎年厳かにまた賑やかに行われて来ました。その中でも秋のお祭りは、夏の厄病を追い払う勇壮な祭りとは雰囲気を変えて人々が素直に収穫を祝い、神々に喜びを伝えるお祭りの原点ともいえる風景を色濃く残す味わい深い祭事のように思えます。農耕民族、特に米作を主とする日本人にとって秋は1年の労働の成果の集大成であり、もっとも富み栄える季節でありお祭はその喜びを最高潮に具現化したものでもあるのでしょう。

しかし一方で秋の到来は、春から続く成長の季節の終焉を意味します。秋祭りは来るべき厳しい冬に備え、物と心に準備を呼びかけるけじめの行事であるのかも知れません。それ故でしょうか、秋祭りと聞くと今月の歌「村祭」にあるような笛や太鼓の賑やかな音色も、ゆく秋を惜しむもの悲しい響きを含んでいるように思えます。

毎月お知らせしている「季節のことば 36 選」。10月のことばは、「紅葉（もみじ）前線」そして「秋祭（あきまつり）、冬支度（ふゆじたく）」です。祭りの後片付けも済み朝夕の冷え込みがはっきり感じられるようになるといよいよ錦秋の到来です。



2013年9月8日の明け方、日本各地で2020年夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催決定に多くの方々が思わず歓声を上げられたのではないのでしょうか。東京での開催は、1964年第18回大会以来実に56年ぶりであり、アジアでは初めての同一都市での開催となります。誘致に際しては賛否さまざまな意見もありましたが、ここは世界最高の舞台でスポーツのすばらしさを身近に堪能できる幸せと世界中の方々に日本の魅力をさらにお伝えするまたと無い機会と捉え7年後のその日を楽しみにしたいと思います。

さて、前回の東京オリンピックは戦後復興から高度成長期へと日本が経済大国へと発展を遂げる起点とも言える時代に行われた一大国家イベントでした。読者の皆様の中にも多くの方が、この頃を境に生活が一変したと記憶されている方が多いのではないのでしょうか。今も私たちの活動を支えている新幹線や高速道路も開催を機会に作られたものですし、身近

な生活においても毎日使う行き帰りの道が舗装されたり、いざなぎ景気の勢いで家庭に新・三種の神器と言われたカラーテレビ・クーラー・自動車が普及するようになりました。まさに便利・快適な時代への幕開けでした。

その頃は、今と比べると実のところまだまだ生活は貧しく、欲しいものや実現したい夢は誰も尽きぬほど持っていました。ただ、日々少しずつでも望みが目に見えて実現されていく時代であり、人々の幸福満足度はかなり高いものでした。

その後は、ご承知のとおり列島改造、狂乱物価、大量消費、バブル景気とその崩壊を経て今に至る長い停滞の時代を私たちは過ごしています。そして今日、前回のオリンピック開催の頃に比べ遥かに豊かな時代を享受しているにもかかわらず、人々がそれに相当する大きな充実感に満たされた生活を過ごしているとは必ずしも言えないようです。

そのような状況の中で、私たちは56年ぶりのオリンピックを再び迎えることになりました。次のオリンピックが何も前回のように戦後復興から高度成長へ、というような象徴的な転換点に無理やりする、またはなることが必要とは思われませんが、私には成長と停滞の半世紀を経験した今や成熟社会といわれる日本にとってその先の自らの有り様を示す転換の時期と重なりそうな感じがします。

それは最近の新聞やテレビのニュースで喧伝されるような五輪特需となり経済成長が回復するのか、あるいは途方も無い借金を子孫に背負わせ停滞から没落への道筋となることもあるかもしれません。ただ、人々の生活充実感に占める経済的豊かさの割合が低下し、新しい価値観による豊かな暮らしを実現していく社会へ転換していくことも、一つの可能性として考えられます。

もっとも、新しい価値観というものが何なのかは多くの考えがあると思われまます。資源をあまり使わない地球に優しい暮らしをすることなのか、健康なまま長生きできるようにすることなのか、知的で文化的な街づくりを進めることなのか、などなど…。それは一つのことではなくいくつもの価値観を含むものでもあるのでしょう。その答えは、まだ開催までに7年ありますし、はたまた開催以降も続く時代のうねりの中でだんだん鮮明になってくることもあるでしょう。そして、もしかして3回目の夏季オリンピックを開催する頃には、回顧録として2回目の夏季オリンピックを開催した頃が新たな時代の人々の有り様を決定付けた日本の大きな転換期であった、と言われるようになるのかもしれませんが。そのような特別な時代を生きていくのかもしれないという観点も持ちながらオリンピックの開催を待つことが出来ることは、この時代に生きる私たちに与えられた大いなる楽しみであり特権であるとも言えるのではないのでしょうか。

何か取り留めの無い夢のような話となりましたが、そもそも「オリンピックとは人類の持っている夢のあらわれである(市川昆監督映画「東京オリンピック」冒頭)」という言葉もあります。せつかくの与えられた機会です。たとえ競技場に立つことは無くとも、皆さんもそれぞれいろいろな夢を描いてその時を待ってみるのは如何でしょうか。

NEWS

【(新) ～地域の医療機関の皆様へ～ 摂食嚥下専門外来について】

摂食嚥下専門外来は、地域の先生方が摂食嚥下障害の専門的評価や指導、治療が必要とされる時に、ご利用いただく専門外来です。外来は耳鼻咽喉科医と摂食・嚥下障害看護認定看護師を中心に必要に応じ多職種も交えて対応し、紹介患者様の継続診療が可能となるように総合的な介入を行います。従来から、大阪府下やさらに大阪府周辺地域の総合病院やリハビリテーション病院からの摂食嚥下障害への外科的治療（嚥下機能改善手術、喉頭気管分離や声門閉鎖術といった誤嚥防止術）に関する相談や実際の手術も積極的に受けており、必要な患者様には手術対応も可能です。

当専門外来での診察は、車いすや寝たきりの方も、適切に評価や指導を行えるようベッド上で診察を行う体制を整えました。そのような十分な診療体制のもと、嚥下障害と咽頭・喉頭・気管を専門とする耳鼻咽喉科専門医が嚥下内視鏡検査を行い、さらに必要な患者様には嚥下造影検査を行い総合的な評価を行います。その上で、患者様の環境や全身状態に応じて適切な指導を行いたいと考えます。

嚥下障害の診察には十分な診察時間とさまざまな情報が必要のため、完全予約制で主治医からの紹介状と主たる介護者の同伴をお願いしております（診察日 金曜日 14時30分）。今後はさらに大阪の地域医療に貢献できる摂食嚥下専門チームとして力を尽くしていく所存ですので、何卒よろしく願いいたします。

耳鼻咽喉科主任部長 坂田義治

【無痛分娩（和痛分娩）を開始しました —産婦人科—】

当センターではこれまでから医学的に必要性のある方にのみ無痛分娩を行ってまいりましたが、このたび、妊婦さん自身のご希望による無痛分娩を開始いたしました。

当センターでは、より安全で、よいお産をしていただくために、産科医、助産師、新生児科医だけでなく、麻酔科をはじめとして、各診療科の協力を得て、妊娠分娩の管理にあたっております。妊婦さん自身が考えられるよりよいお産のために我々が何をできるかについて、是非ご相談ください。

無痛分娩は、硬膜外麻酔法によって分娩に伴う痛みを和らげる方法です。和痛分娩とも言い、分娩に伴う痛みがまったくなくなるわけではありませんが、痛みを大幅に和らげながら経膈分娩を行う方法です。

硬膜外麻酔法は、細くて柔らかいチューブを背中から腰の脊髄近く（硬膜外腔）に入れて、そこから鎮痛薬を少量ずつ注入することで行います。神経の近くに鎮痛薬を入れることから、使用する鎮痛薬の量は少量で、赤ちゃんに対する影響はほとんどありません。

日本ではまだ一般的とはいえませんが、欧米では広く実施されており、アメリカやフランスでは、全分娩の約6割が硬膜外無痛分娩によって行われています。

これまで、無痛分娩を希望される方でも、費用の面で不安を感じられる方が多かったことを考慮して、当センターでは、無痛分娩の分娩費用を約53万円の定額制とし

ておりますので、安心してご相談ください。ただし、保険診療の適応となるような医学的処置を行った場合を除きます。

【シリコンバッグによる乳房再建が保険適用になりました】

今年7月より、従来自費診療であったシリコンバッグによる乳房再建が保険適用になりました。

今回、皮膚を伸ばす目的で挿入する「ティッシュ・エキスパンダー」というシリコン製のバッグと、最終的に乳房の形をつくる「ブレストシリコンバッグ」というゲル入りシリコンバッグの両方が保険用医療機器として認可されました。

それにより、従来は自費でしか治療できなかったシリコンバッグによる乳房再建が入院費や手術代を含め、すべて保険診療でまかなえる様になりました。(但し、一部の形のシリコンバッグは保険適応外)

自家組織による乳房再建と比べると、自分の体を傷つけることなく再建が可能で、万が一の場合に抜去することも可能です。

当センターでは、シリコンバッグによる乳房再建以外にも患者さんのニーズに合わせた多種多様な再建法が選択していただけるようなシステムを取っておりますので、是非お気軽にご相談ください。

形成外科主任部長 藤川昌和

【～地域の医療機関の皆様へ～ 硝子体手術について】

7月1日付けで御手洗慶一医師が当センター眼科医長として着任致しました。前職にて硝子体手術を研鑽し、この卓越した技術を持って当科に赴任しました。

網膜硝子体疾患は光の受容器官である網膜が障害されるため、失明に至る重篤な患者も多く、その治療は視力予後に直接影響します。疾患の病態を十分に理解した上で適切な処置を施行すれば、劇的な効果が得られる極めて有用な治療法でもあります。

急性期病院として長年にわたり硝子体手術に十分に対応できないことを心苦しく思ってきましたが、今後はこの分野でも先生方のお役にたてればと考えております。従来の白内障、緑内障、加齢黄斑変性はもちろんのこと硝子体手術も含めて幅広く診察していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

眼科主任部長 内堀恭孝

【薬局からのお知らせです】

院外処方せんについて

当センターでは、外来患者さんのお薬は原則として「院外処方せん」を発行しています。「院外処方せん」は、ご自宅や勤務先近くの『保険薬局』で調剤してもらえます。

かかりつけの薬局を決めておくと、処方されたお薬の内容の記録（これを「薬歴」といいます）を保存し、当センターで処方されたお薬だけでなくほかの医療機関で処方されたお薬や市販薬に至るまで患者さんの薬歴を総合的に管理し、お薬の重複や相

相互作用をチェックすることができるので、より一層安全なお薬の使用が期待できます。また、「サプリメント（いわゆる健康食品）」のなかには、医薬品との相互作用を発現するものも多くありますので、服用しているサプリメントについても「かかりつけ薬局」の薬剤師にお伝えください。

薬局窓口横には、(社)大阪府薬剤師会の「院外処方せん相談窓口（ファクシミリコーナー）」が開設されており、患者さんにとって最適な保険薬局の紹介やかかりつけ薬局への処方せんの FAX 送信、その他院外処方せんに関する様々なご相談に薬剤師会のスタッフが応じています。

お薬手帳について

患者さんに処方されたお薬の名前や飲む量、回数、飲み方、注意することなどを記録するための手帳です。病院・診療所、歯科医院、薬局では、必ずお薬手帳を見せましょう。同じお薬が重なっていないか、不都合な組み合わせ等についての確認ができます。

災害、事故、旅先での容体の急変など、緊急の場合にも医師の判断に役立ちます。常に携帯しておきましょう。お薬手帳は、どの医療機関・薬局でも使えます。1冊にまとめましょう。

【～地域の医療機関の皆様へ～

肺癌術後地域連携クリティカルパスの紹介 ー呼吸器外科ー

クリティカルパスとは、その病気の平均的な臨床経過を予測して、ベストと考えられる診療の計画がなされ、その計画に患者さんが納得いただいた上で、医療関係者が共同して診療を行うシステムです。地域連携クリティカルパスでは、地域医療機関（かかりつけ医）と当院との間で、患者さんの医療情報と治療方針を共有しますので、より良い共同診療体制を構築できる可能性があります。

ユーエフティ（UFT）内服による肺癌術後化学療法

呼吸器外科で扱う疾患のうちもっとも多いのが原発性肺癌です。腫瘍径が 2cm 以上の stage I a または stage I b に対する術後補助化学療法としては、UFT 内服による化学療法が日本肺癌学会作成のガイドラインでもグレード B として推奨されています。ユーエフティ(UFT)は発売後 25 年が経過しており、その外来投与の管理ノウハウは十分に確立されております。また、内服期間は 2 年間という長期間の設定で、その間の治療効果の評価は 3—6 ヶ月毎となっています。期間設定の点からも、地域医療機関（かかりつけ医）の先生方との間で共同診療を行うことが可能と思われます。

地域連携クリティカルパスについての具体的なイメージを得ることは難しいですが、最終的には上記のようなクリティカルパスを利用することで病診連携を充実することができればと考えております。よろしくお願い申し上げます。

呼吸器外科部長 大森謙一

【臨床研究の新たなる発展をめざし～ 臨床研究センターを設置しました】

当センターはわが国の代表的な高度総合医療施設として質の高い医療を提供する役割を担っております。そのために日々進歩していく医学に合わせ新しい医療技術や医療サービスを導入し、臨床成果を検証し、不断の努力で臨床研究を積み重ねていく必要があります。

急性期医療から高度専門医療まで、総合力を生かした良質な医療を提供するとともに、医療人の育成と府域医療水準の向上に貢献することが当センターの理念です。この理念に加えて、臨床医学を土台として、その病態を明確にしつつ、未解決分野への取り組み、さらに新規治療の開発を目指すための臨床研究の円滑なる推進を図る目的で、当センター内の独立した部門として平成 24 年 10 月に臨床研究部が設置され、平成 25 年 4 月には臨床研究センターに昇格しました。

臨床研究センターは 11 の研究部門と実験可能な臨床研究室からなり、専任医師 1 名と CRC2 名、データマネージャー 1 名、事務 1 名、また各部門長としては兼任医師、薬剤師、看護師から構成されています。各研究部門の概要は以下のとおりです。

第 1 研究部門 (がん)、第 2 研究部門 (腎, 心, 血管, 肺)、第 3 研究部門 (代謝, 消化器)、第 4 研究部門 (精神, 脳, 神経, 麻酔)、第 5 研究部門 (免疫, アレルギー, 移植, 感染)、第 6 研究部門 (救急, 小児, 周産期)、第 7 研究部門 (運動器)、第 8 研究部門 (生体画像, 検査医学)、第 9 研究部門 (薬学)、第 10 研究部門 (看護学)、第 11 研究部門 (医療疫学, 医療情報)、臨床研究室 (実験)

今後、当センター独自の臨床研究を推進し、また他施設と連携した大規模臨床研究、トランスレーショナルリサーチを推進し高度総合医療施設に恥じない臨床研究センターとして医学の発展と府民の健康と福祉に貢献できるよう精力的に研究を進めていく予定です。皆様方の臨床研究センターへの暖かいご支援、ご鞭撻をどうかよろしくお願い申し上げます。

臨床研究センター センター長 武田伸一

【「医療相談」コールセンターのご利用を – 地域医療連携室 –】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話でのご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号は 06-6692-2800 (専用電話回線)

06-6692-2801 (専用電話回線)

相談日時 月曜日～金曜日 午前 9 時～午後 5 時

相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等

相談員 看護師

【診察予約変更センター 9 診療科において診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています！】

当センターでは、下記の9診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。是非、積極的にご活用ください。なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意ください。よろしくお願いいたします。

(電話番号) 06-6692-1201(代表)にダイヤルして
「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科
皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科
神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【入院治療費や外来での検査費用の概算を予めお知らせするサービスをしています】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター（やすらぎセンター）におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

また、CT、MRI、RI、エコー検査など検査費用の概算を医療・福祉相談コーナーなどでお知らせするサービスも行っていきます。

今月の催し

【すこやかセミナー「病院食の秘密教えます」】

日時 10月10日(木) 午後2時～3時
場所 本館3階 保健教室
講師 栄養管理室長 山根泰子
参加費 無料

【(新)手洗いキャンペーン～10月15日は世界手洗いの日】

日時 10月15日(火) 午前11時～午後1時
場所 本館2階 渡り廊下
内容 ブラックライトを用いた手洗い体験
(手洗いシートを配布しております)
テーマ 手洗いでみんなの命を守ろう！！
参加料 無料

【(新) 相愛大学連携 第 30 回外来糖尿病教室

知って得する! 糖尿病との付き合い方】

日 時 10月16日(水) 午後2時～
場 所 本館1階 アトリウム
内 容 糖尿病神経障害の話 (糖尿病代謝内科医師 清水彩洋子)
糖尿病の足病変と手入れ (糖尿病看護認定看護師 後藤博美)
食欲の秋にご用心 (栄養管理室管理栄養士 笠井香織)
参加費 無料

【(新) 大阪府立 5 病院共同公開講座 高齢者に優しい治療法】

日 時 10月22日(火) 午後1時～4時 [受付開始 12時～]
場 所 ドーンセンター (大阪府立男女共同参画・青少年センター)
内 容
第1部 生活の質(QOL)を守るための治療
・在宅酸素療法～その息切れを和らげるために～
(呼吸器・アレルギー医療センター 呼吸器内科部長 宍戸克子)
・ヘルシー・マインド～脳と心を健やかに保つために大切なこと～
(精神医療センター 総合診療科部長 岩田和彦)
・難聴の新しい治療～人工内耳～
(母子保健総合医療センター 耳鼻咽喉科部長 西村 洋)
第2部 体にやさしい治療法
・前立腺がんの手術がロボットで変わる
(急性期・総合医療センター 泌尿器科主任部長 山口誓司)
・咽頭がん・食道がん～内視鏡による早期発見～
(成人病センター 消化管内科診療主任 鼻岡 昇)
・高齢者に優しい放射線治療
(成人病センター 放射線治療科主任部長 手島昭樹)
第3部 質疑応答

【(新) 第 28 回相愛大学連携コンサート～華やかなピアノの音色を聴きながら

深まる秋の午後を一緒に過ごしましょう～】

日 時 10月23日(水) 午後2時～
場 所 本館3階 講堂
出 演 [ピアノソロ] 田中さおり
入場料 無料

【すこやかセミナー「麻醉ってなに? 知っておきたい基礎知識」】

日 時 10月25日(金) 午前11時～12時
場 所 本館3階 保健教室

講師 麻酔科 副部長 山下健次
参加費 無料

【作品展（コスモス会の開催と作品の募集について）】

今年も当センターとコスモス会の共催による作品展を10月28日から30日の間、本館3階講堂で開催します。なお、出展作品を下記のとおり募集していますので、皆さん奮ってご応募ください。

応募資格 患者さんとその家族及び病院関係者
応募方法 出展ご希望の方は、当センター総務グループ（06-6692-1201 内線2313）へお問い合わせください。
応募作品例 絵画、写真、書道、手芸ほか
作品受付日 10月28日（月）午前9時～10時
作品返却日 10月30日（水）午後4時～5時

【第10回病院ギャラリー企画展 「日本庭園の美」

岩宮武二写真展 “宮廷の庭 シリーズより” 】

岩宮武二は1920年に鳥取県米子市に生まれ89年に没するまで、「今を生きる」を座右の銘に、今、現在生きていることを意識し、過去から現在、未来へと続いていく事象や形を豊かな感性で見つめる写真家として活動しました。

今回は第9回に引き続き岩宮武二写真展の第2弾として、日本の美の象徴として京都にある3つの名園を27枚の写真に収めた作品群を展示します。

（本企画展は、大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力を得て実施しています。）

開催期間 2013年8月26日（月）～12月20日（金）
展示場所 本館2階 病院ギャラリー
展示作品 宮廷の庭シリーズ 27枚（仙洞御所、桂離宮、修学院離宮）

【（予告）平成25年第2回リウマチ教室】

日時 11月5日（火） 午後2時～4時
場所 本館3階 保健教室
プログラム 1 最新の関節リウマチ治療（免疫リウマチ科主任部長、
関節リウマチ・バイオサポートセンター長 藤原弘士）
2 医療費助成制度（医療ソーシャルワーカー 松尾こずえ）
3 リウマチ患者さんへの日常生活指導（看護師 小山富美子）
参加費 無料

【(予告) 第5回肝臓病教室「肝硬変・肝臓がんにならないためには？」】

- 日 時 11月9日(土) 午前10時～12時
場 所 本館3階 講堂
内 容 1 肝硬変・肝臓がんにならないためには？
～B型・C型肝炎との関係～
(消化器内科主任部長 井上敦雄)
2 肝硬変・肝臓がんにならないためには？ ～飲酒と肥満との関係～
(消化器内科副部長 春名能道)
3 B型・C型肝炎の治療薬について (薬局薬剤師 鎌田宏和)
4 肝臓病と食事 (栄養管理室管理栄養士 織田 都)
- 参加費 無料
※ 9時30分より講演開始まで体脂肪測定を実施します。

【(予告) 相愛大学連携 第31回外来糖尿病教室

知って得する！ 糖尿病との付き合い方】

- 日 時 11月14日(木) 午後2時～
場 所 本館1階 アトリウム
内 容 今日の世界糖尿病デー！ (糖尿病代謝内科主任部長 馬屋原 豊)
インスリンのあれこれ (薬局薬剤師 的場美香)
コンビニ活用術 (栄養管理室管理栄養士 笠井香織)
- 参加費 無料

【(予告) すこやかセミナー「脳卒中」】

- 日 時 11月14日(木) 午後2時～3時
場 所 本館3階 保健教室
講 師 脳神経外科医長 乾 登史孝
参加費 無料

【(予告) すこやかセミナー

「アンチエイジング～かわいく！かっこよく！マイナス10歳～」】

- 日 時 11月22日(金) 午前11時～12時
場 所 本館3階 保健教室
講 師 薬局長 室井政子
参加費 無料

【(予告) 第 18 回万代・夢寄席～講談界の希望の星 旭堂小二三講談の会～】

日 時 11 月 26 日 (火) 午後 2 時～
場 所 本館 3 階 講堂
出 演 講談師 旭堂小二三
入 場 無料

Topics

【(新) 管理栄養士のコーナー～ちょっとおいしい話～】



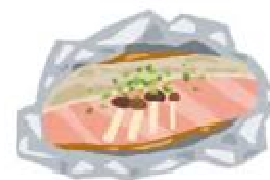
病院での食事は、治療の一環として重要な役割を担っています。また同時に、入院中の患者さんにとっては楽しみの一つでもあります。当センターの栄養管理室ではこの期待に応えるため、例えば季節の催事に併せた行事食を年間 16 回以上提供するなど、患者さんに少しでも喜んでいただけるよう食事の工夫に努めています。

今月からやすらぎ通信に管理栄養士によるコーナーを設け、季節を感じるレシピと共に栄養に関する豆知識を連載いたします。

食欲の秋、食べ物がおいしい季節ですね。当センターでも季節の材料を使用した食事を提供しています。患者さんにも好評で、調理も簡単、私も大好きな『魚ときのこのホイル焼』を紹介します。

《材料》	(1 人分)	(2 人分)
カラスカレイ	1 切れ 80 g	2 切れ 160 g
A { 塩	0.5 g	1.0 g
料理酒	小さじ 1/2 杯	小さじ 1 杯
えのき	10 g	20 g
しめじ	10 g	20 g
玉ねぎ	20 g	40 g
B { 濃口しょうゆ	小さじ 1/2 杯	小さじ 1 杯
みりん	小さじ 1/2 杯	小さじ 1 杯

(1 人分) エネルギー : 97kcal たんぱく質 : 16.6g 脂質 1.1g 食塩相当量 : 1.1g



- ① 魚に A で下味をつけます。
- ② えのき、しめじは食べやすい大きさに切り、玉ねぎはスライスします。
- ③ ホイルに、①②をのせ、B で味付けし、オーブン (オーブントースター) で 20 分程度加熱したら、できあがり！

きのこは、低エネルギーで、食物繊維も豊富な食材です。便秘の予防や血糖値の上昇を緩やかにし、血液中のコレステロールを下げる働きがあります。

ご家庭では、お好みの魚介類やきのこを使って下さい。塩・しょうゆ・みりんを入れず、調理後にポン酢でお召し上がりいただければ、塩分を減らすことができます。是非、お試し下さい！

栄養管理室 室長 山根 泰子

今月のひまわりさん

各種窓口でセンターご利用のお手伝いをさせていただいている医事事務委託会社ソラストの窓口担当を紹介させていただくコーナーです。

【(新) 会計窓口担当 河村さんの巻】

私は、外来会計窓口で仕事をしています。外来会計窓口にはそれぞれの診療科で受診された患者様が診療費のお支払いの為、必ずファイルを持ってこられます。私たちはそのファイルをお預かりし処方箋の記載内容の確認をしたり、伝票類などをもとにそれぞれの医療保険の種類によってお支払い頂く負担分を計算し、自動精算機や収納窓口でお支払い頂いています。

患者様の中には、朝早くから病院に来られ、診察や検査でずいぶん疲れておられる方もいらっしゃると思います。そのような患者様をさらに最後のお支払いでお待たせするという事がないように正確で迅速な対応を心がけています。

しかし、昼前頃からは診療科から診療等を終えられた患者様が一斉に会計に集まってこられ、最も混み合う場所となってしまう、患者様に「待ち時間が長い」とお叱りを受けることがあります。その時は誠実な気持ちで納得して頂けるような説明を心がけていますが、それでもなかなかうまく説明することが出来なかった時は、一日の終わりの反省の際に、その時本来ならどのような説明が適切だったのかを顧みるようにしています。

そのような日々ですが、時折、患者様から「ありがとう」と言って頂くこともあります。患者様にとっては自然に口にされた言葉でも私たちにとってはとてもほっとできる瞬間です。その時はどんな疲れも吹っ飛び、失敗で落ち込んだ気持ちも、「また明日も頑張ろう」という気持ちに変わります。

これからも一人でも多くの方に「ありがとう」と言って頂けるように頑張りたいと思います。

その他のお知らせ

【やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページの「メールマガジン申込み」からアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページの検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

【医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関は J-Debit に加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。